

与論のムナ

与論高等学校2年



イシャトウ



いたずら大好き

ハパタギマンジャイ

クビキラモーミャー

ヒームヌ

ウグミ

猫ムヌ

マーダチムヌ

火玉

『ムヌ』

ワームヌ

イシヤトウ

クビキラ馬

ギャータシ

マッタブムヌ

プクルビ

ピャーヌパンタの怪

目次

研究方法

研究結果

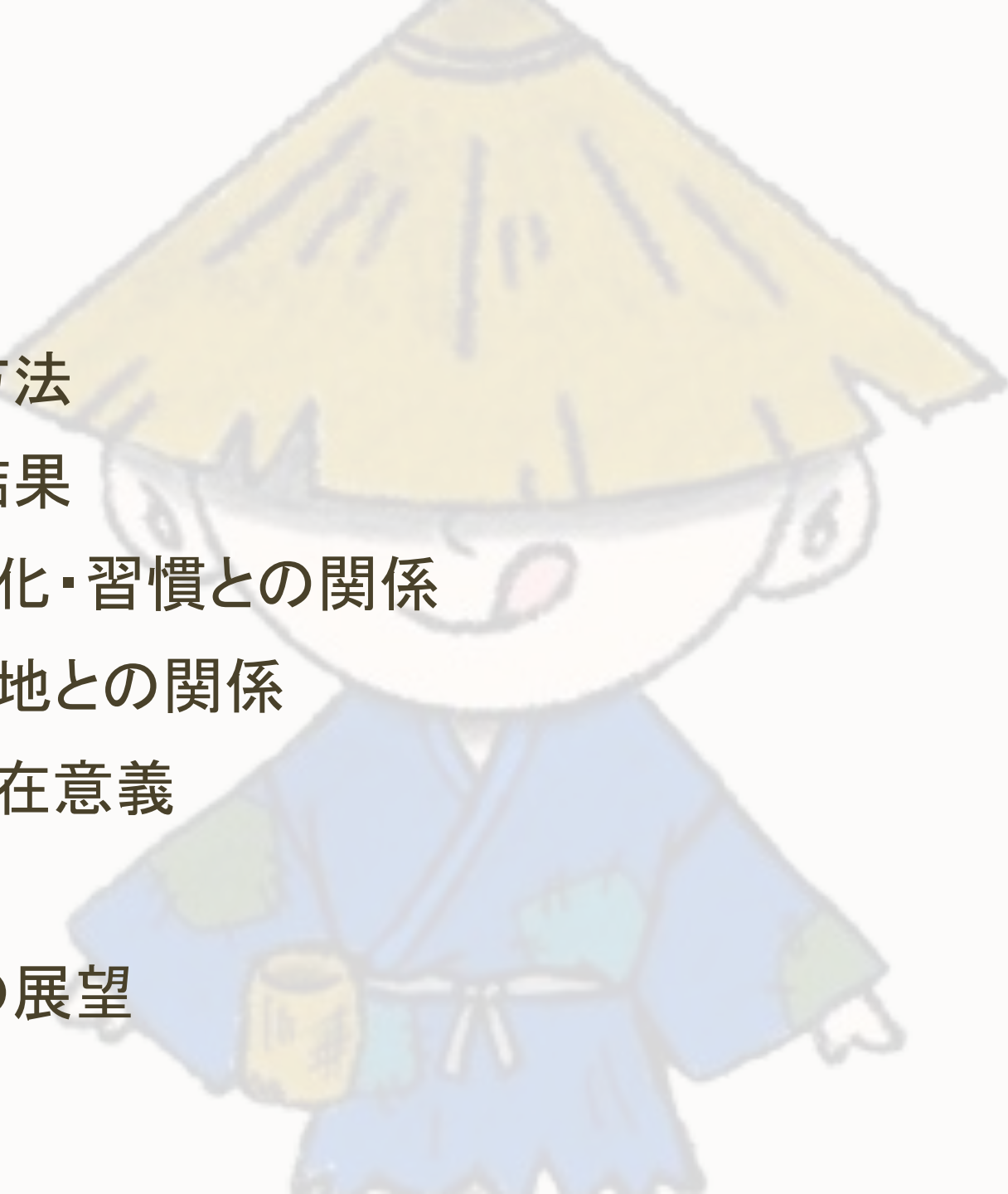
①文化・習慣との関係

②土地との関係

③存在意義

考察

今後の展望



研究方法

文献調査

インタビュー:

かりゆしバンド 田畑哲彦さん 牧美也子さん

与論民俗村 菊秀史さん



研究結果

①文化・習慣との関係

○魔除け

(スイジガイ、左綱など)

○禁忌・迷信

(主人が漁に出ているときに髪を洗ってはいけない、夜の蜘蛛は悪魔の使いである など)

○歌

(夕方以降に歌ったら死んでしまうという歌)

○行事

(新家屋ぬ祓え、火ぬ祈祷など)



与論では
「ガギモー」



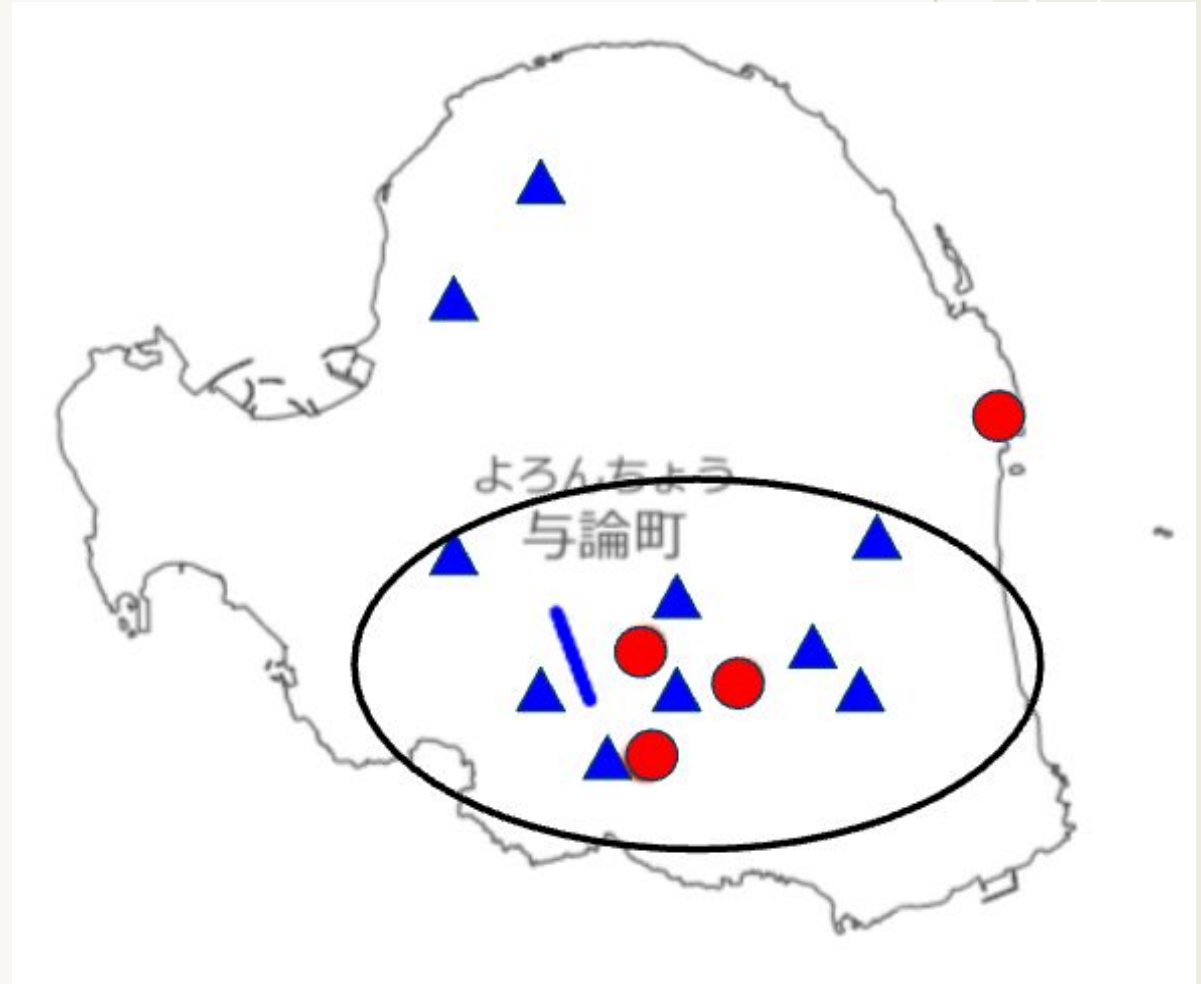
②土地との関係



ムヌがよく出る場
所



神社



③存在意義

- 注意喚起
- 子供に対するおどし
- 事故・災害への意味づけ





考察

○ムヌの話が数多く伝わっている理由

- ①離島の特性により、与論特有のムヌが生まれた。
- ②ムヌと近い存在である神様が多く祀られ、大切にされてきた。

○ムヌと人々の生活

ムヌは島の人々の暮らしの様々な要素と絡み合っており、大切な文化の一つである。





今後の展望



○ムヌの特徴や名前、説話の伝わり方の地域差について調査する。

○与論のムヌの話を集めた説話集、ムヌに関する昔話を題材にした絵本の作成

○ムヌの研究を進めることで、ムヌの話とともに与論の人々の生活や文化を継承していくことができる。



参考文献

無学日記 池田福重

与論のしまがたり 菊千代

与論島の俚諺と俗信 野口才蔵

超自然的存在に対する信念が心のゆとりに与える効果-妖怪の社会的機能を含む媒介変数の検討- 高橋綾子

妖怪の存在論的歴史人類学-日本における妖怪研究の概念および学史の批判的再構築- 廣田龍平

ドウダンミン2 竹下徹 平成18年6月

与論郷土研究会会報 第2号 はじぴき 竹下徹

イラスト:————さん

ご清聴ありがとうございました



※生徒名、画像や写真など HP掲載にあたり資料の内容を一部変更している箇所があります。